

学校教育方針および目標

1 繁藤小・中学校基本方針

小・中連携教育のさらなる推進と、伝統ある「国際理解教育」「人権・福祉教育」及び「特別活動」などの特色ある取り組みを実践し、子ども・保護者・地域と連携した教育の充実をめざす。

めざす学校像 ○明るく楽しい学校 ○一人ひとりが大切にされている学校
 ○支え合う高め合う学校 ○地域から信頼される学校

(1) 学校教育目標 「ふるさとを愛し、世界に羽ばたく児童・生徒の育成」

(2) 学校運営方針 「子ども・保護者・地域の願いに応える学校教育」

(3) 重点目標 「魅力ある学校づくり」「地域に根ざした教育」

- 基礎的・基本的事項の定着（自ら学び考える力の育成）
- コミュニケーション能力の育成（人間関係の力の育成）
- 人権意識にめざめた豊かな人間づくり（人権を尊重する心の育成）
- 福祉・交流活動の推進（豊かな人間性を育む力の育成）
- 進路指導の充実（生きる力を追求する力の育成）

(4) めざす子ども像

「豊かなころ・たくましく生きる力を身につけた子どもの育成」

- 自ら考え表現し、行動する子
- 思いやりをもち、人権を大切にする子
- 国際的な視野をもち行動する子

(5) めざす教師像

- お互いの特性を生かしながら、子どもや地域に信頼される教師
- 自らのよさや得意技を磨くことができる教師
- お互いの立場や状況を理解し、支え合える教師

本年度の具体的取り組み

- 地域と連携した教育の推進
- 特別支援教育の推進
- 学校評価（自己評価）の実施

2 研究主題

自ら学び、心豊かで、たくましく生きる児童・生徒の育成

～豊かな感性と生きる力を育む人間教育をめざして～

(1) 研究の視点

- ①学ぶ意欲を高める
(小集団の中で)
 - ・基礎基本・定着への取り組み
 - ・わかる授業、楽しい授業づくり
 - ・まちがいをおそれず、生き生きと活動できる教室

- ②豊かな感性を育む
 - ・道徳教育の推進
 - ・人権教育の推進
 - ・全校で実施する朝読書の充実

- ③個を大切に、仲間と共に高まる集団づくり（特別活動や学級活動を通して）
 - ・規律ある集団
 - ・支え合う集団
 - ・自治活動のできる集団
 - ・自尊感情を高める支援

- ④「総合的な学習」の研究推進
 - ・発達段階に応じた実施内容の研究
 - ・「生きる力」に結びつく福祉交流・体験学習

(2) 研究主題について

本校では、小・中学校連携推進校として、平成15年度より、取り組みの基本構想や系統表づくりに着手し、教科指導を軸とした学力保障の取り組み、行事づくりや交流学习を軸とし集団づくりの取り組みなどの研究を継続してきた。研究当初は、話し合いを何度も繰り返し、試行錯誤の連続の日々であったが、小・中職員室の壁が取り外され、同じフロアに教職員が会するようになった頃より、小中の職員間にあった壁も少しずつ無くなり、教科の時間や各領域また行事等で、繁藤校としての動きが一本の線となり、機能的に運営、活動できるようになってきた。

本年度はさらに、その取り組みを前進させるため、小規模校における児童・生徒の「生きる力」を育てることに視点をおいて、学校教育目標・運営方針・重点目標・研究主題・研究の視点等の検討を行い、継続の上にも、さらに発展した取り組みを積み上げ、実践したいと考えている。小・中9年間の各段階で児童・生徒につけていきたい力を確認し、発達段階に応じた学び伝え合う教育集団づくりをめざしていきたい。

3 主題設定の理由

21世紀の大きく変動する社会情勢の中、今、子どもたちに求められているのは自分の個性伸ばしながら、価値観の変動するこの世をたくましく生きぬいていく力ではないだろうか。

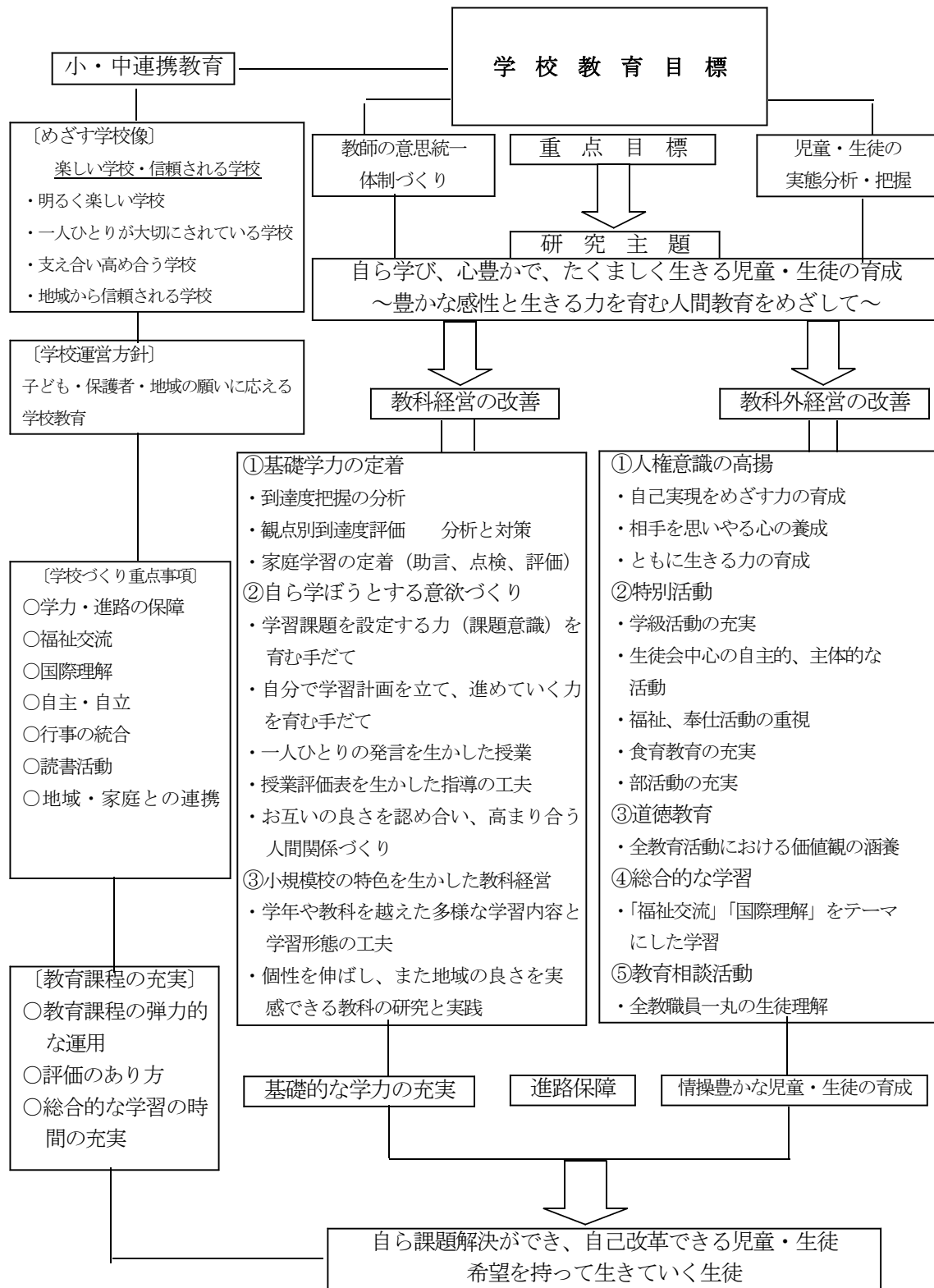
自然に恵まれ、地域の暖かい愛情に包まれて、成長してきた本校の児童・生徒たちは、総じて明るく素直であり、仲間を大切に、授業や多くの行事にも真面目に取り組む。ルールや規律をよく守り、何事にも協力して臨むことができ、落ち着いた環境で、じっくりと学習に取り組むことができる。しかし、受け身の姿勢が見られることも多く、自分の考えを他者に伝えようとする姿勢が弱いことや、過疎高齢化の進む地域であり、情報に乏しく、思考力、判断力、表現力を練り上げる機会や場も狭くなりがちで、発想の多様性に欠けるなどの課題もある。この課題を共通認識としてとらえ、「生きる力」を高めるための確かな学力の保障に取り組んでいきたい。

本校では「生きる力」を夢や希望を持ち、自己の生き方を考えることができる力、自立に向かって歩いていく力、また、逆境の中でもたくましく耐え抜く力、多くの人と関わりつつ、学習と集団生活の中での基礎・基本を身につけ、目標や夢に向かって、自分の力と現実を見すえながら一步一步進んでいく力こそ、「生きる力」の基本で、それを身につけさせるため、支援のあり方を追求し、資質を高めていきたい。また小規模校における授業研究、自主的な学習の定着を図るための研究も深めていきたいと考える。

本校は、ここ数年児童・生徒が減り続け、本年度は児童5名・生徒8名、計13名となった。比較的個に応じた対応、個性の伸長は図れていると思うし、種々の活動の中で、一人ひとりが活躍できる場面も多くあり、自信や心身の成長に大きく寄与している。その一方で、生徒数が減ってきているにもかかわらず、伝統的行事の内容が変わらず、結果として生徒一人ひとりの負担も大きくなっている。そこで、ここ数年行事・活動の精選が問われてきたが、昨年度から厳選を徹底し、個々の生徒の成長、自己変革を助けることを中心にすえ、一つひとつの活動を大切にできる環境を創りつつある。全教育課程を通して、児童・生徒一人ひとりが、自己の生き方に深くせまり、豊かな体験から視野を広げることで、郷土を愛し、卒業後もたくましく未来を拓き、自己表現を果たし、地域に貢献しようとする態度と力を培いたい。

さらに、将来の自己実現をめざし、常に夢を語りあえる学級、子どもと教師、子どもと家庭であって欲しいと願う。「夢を持つ」ということは「目標を持つ」ということ。その話し合いが、コミュニケーション能力を高め、自尊感情を高めることにもつながっていくだろう。この繁藤小中学校を、さらに元気な学校にしていくためにも、児童・生徒が、まず「自分を大切な存在」だと思える自尊感情を高め、お互いの個性の違いを理解し、認め合って、仲間とつながり、高まり合うことがさらに重要になってくると思われる。

4 研究構想図



☆学校づくりの重点事項

《確かな学力》	《ともに生きる》	《自分らしさ》
〈確かな学力と豊かな心〉 ○ 実態把握と追跡指導 ○ 9年間を見通した学力・進路の保障 ○ わかる授業の創造 (自ら学び、考える力の育成, 基礎・基本の習得) ○ 相互乗り入れの実践 ○ 標準学力検査の分析 ○ 個人カルテの作成継続 ○ 授業研究 ○ 「学習の手引き」研究 ○ ノートの使い方 ○ 朝読書の取り組み ○ 家庭学習の習慣化	〈福祉活動〉 ○ 自己を見つめる力、他を思いやる心の育成 ○ 感動(実)体験を重ねる ○ 小中連携 ○ 高齢者交流とウエルブラザやまだ荘訪問 ○ 道徳教育・人権教育の充実 ○ 自尊感情の研究 ○ 教育心理の研究 ○ 不登校についての研究	〈国際理解〉 ○ 異文化理解・自文化理解・国際交流・国際協力 ○ 英語活動から英語教育への充実 ○ コミュニケーション能力の育成(全教育活動を通して) ○ インターナショナルデーの活用 ○ 英語力の定着と向上 ○ ヒアリングの定着・向上
《よりよく生きる》	《異年齢とのつながり》	
〈自主・自立〉 ○ 児童会・生徒会の合同活動 ○ 自主的な力の育成 ○ 集会活動の企画 ○ クラブ活動 ○ 基本的な生活習慣の確立	〈行事の統合、整理〉 ○ 始業式・終業式・離任式・入学式 ○ 音楽会・参観日 ○ 健康安全活動 ○ 勤労奉仕活動 ○ 異学年との交流	
《地域・家庭・学校との連携》 ○ 開かれた学校づくり ○ PTA活動の活性化 ○ 地域の人たちとの活動への積極的な参加 ○ 家庭教育の充実		